

## 黙示録 16 章 5 節－15 節 スタディーガイド

前回は、海と水の源が血に変わるという、第一、第二、そして第三の鉢の恐ろしい災難について学びました。

### ★ 黙示録 16 章 5 節－7 節

また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。「今いまし、昔います聖なる方。あなたは正しい方です。なぜならあなたは、このようなさばきをなされたからです。彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは、その血を彼らに飲ませました。彼らは、そうされるにふさわしい者たちです。」また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。「しかり。主よ。万物の支配者である神よ。あなたのさばきは真実な、正しいさばきです。」

5 節「水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。『今いまし、昔います聖なる方。あなたは正しい方です。なぜならあなたは、このようなさばきをなされたからです。』」

水を担当している御使いが、水を血に変えられた神様をほめたたえています。

5 節「今いまし、昔います聖なる方。あなたは正しい方です。」と言って、今も昔も多くの聖徒を殉教させた者たちに報いるため、命の基である水を飲めなくさせた正しい審判を賛美しています

申命記 19 章 21 節「あわれみをかけてはならない。いのちにはいのち、目には目、歯には歯……」このみことばの実行です。多くの正しい者の命を奪った悪者たちの命の基を奪われています

### ★ 黙示録 16 章 8 節－9 節

第四の御使いが鉢を太陽に向けてぶちまけた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。こうして、人々は激しい炎熱によって焼かれた。しかも、彼らは、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名に対してけがしごとを言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった。

8 節「第四の御使いが鉢を太陽に向けてぶちまけた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。」

太陽は人々を焼くことができる機能を持っていますが、この日まではそれを世界中に対して

使うことが許されていません。

9節「こうして、人々は激しい炎熱によって焼かれた。」

飲み水もない時であるため、多くの人々が熱中症で死亡するでしょう。

2003年8月、ヨーロッパを猛暑が襲いました。その時フランスでは1万人以上の死者が出ました。これ以上の猛暑が世界中を襲います。

9節「しかも、彼らは、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名に対してけがしごとを言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった。」

これだけの苦難に遭っても悔い改めない頑なさに驚きます。

ダニエル書12章10節「悪者どもは悪を行い、ひとりも悟る者がいない。しかし、思慮深い人々は悟る。」

悪者どもはますます悪を行い、思慮深い人々は首をはねられても神様に従うという終わりの日の出来事です。

#### ★ 黙示録16章10節－11節

第五の御使いが鉢を獣の座にぶちまけた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。そして、その苦しみと、はれものとのゆえに、天の神に対してけがしごとを言い、自分の行いを悔い改めようとしなかった。

10節「第五の御使いが鉢を獣の座にぶちまけた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。」

大患難時代に5回にわたる闇が起こりますが、その第4番目です。

出エジプト記10章22節－23節「エジプト全土は三日間真つ暗やみとなった。三日間、だれも互いに見ることも、自分の場所から立つこともできなかった。しかしイスラエル人の住む所には光があった。」

イスラエルの民が住んでいたゴシェンに光があったように、ボツラに光があると考えられません。

11節「その苦しみと、はれものとのゆえに、天の神に対してけがしごとを言い、自分の行いを悔い改めようとしなかった。」

神罰のゆえ、舌を噛むほど苦しんでいるのに悔い改めようとしなない、地獄への道をあえて選んでいる人々です。

#### ★ 黙示録16章12節－15節

第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうから来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。彼らはしるしを行う悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。

——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである——

12 節「第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうから来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。」

第六の鉢は、今までとは全く違ったものです。

人間に被害を与えたり災難が与えられるのではなく、終末の最終的な戦いの用意をするための援助が与えられています。

大ユーフラテス川は、神様がアブラハムに約束された地の境界線です。イスラエルの民を抹殺しようとする力がいつも働いていましたが、主はそれを許しませんでした。

しかし、終末の大患難時代ではそれを試みることが許されます。ハルマゲドンの集まりのために、敵が大川ユーフラテスを渡ってくるのが許されています。ボツラに隠れているイスラエルの民を抹殺するため、戦いの用意がなされる時です。

13 節「また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。」

サタン、反キリスト、偽預言者の偽りの三位一体は、カエルのように醜い者です。彼らは口を使って王たちを惑わし、神様に汚しごとを語ります。

14 節「彼らはしるしを行う悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。」

ユダヤ人抹殺を成し遂げるために、世界中から軍隊を集めての話し合いです。

14 節「万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。」悔い改めるのではなく、万物の支配者である神様に戦いを挑んでいます。

15 節「——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである——」

ご再臨が目の前まで来ている時です。悪を行う者どもには全く見えていません。

泥棒がいつ入ってくるのかは誰にも分かりません。悪者どもにとっては、主が盗人のように、ご再臨なさるのです。

第一テサロニケ人への手紙 5 章 3 節-4 節「人々が『平和だ。安全だ』と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。……しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。」

反キリストに付く者たちは、「世界平和をもたらしてくれた」と言って獣を拝みます。平和で安全な世界がやってきたと思っている時、主が来られ、彼らの滅びの時が訪れます。

思慮深い人々は、ご再臨に近いことが分かっていますから、身を引き締めて主を待ち望んでいます。



OMEGA MINISTRIES  
OMEGA BIBLE STUDY